

京都産業大学同窓会 宮崎県支部便り

2014(平成26)年
第7号

発行日 2014年1月1日

発行 京都産業大学

同窓会宮崎県支部

E-mail ksu383ki@yahoo.co.jp



ごあいさつ

宮崎県支部 支部長 佐藤 知徳

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

京都産業大学同窓会宮崎県支部は、今年で設立から15年目を迎えることになりました。宮崎県支部の皆様におかれましては、同総会活動への温かい御理解、御協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

昨年は皆様にとりまして、どのような1年でしたでしょうか。一時期様々な災害に見舞われた宮崎も、最近では落ち着きを取り戻しておりますが、昨年京都では、桂川が氾濫し、あの嵐山が、大きな災害にあいました。京都に4年間住んでいれば、おそらく嵐山に行ったことのない方はおられないでしょう。渡月橋をはじめ、変わり果てた風景を目にして、呆然とされる方も多かったのではないのでしょうか。

一方で、明るいニュースもありました。一昨年夏、西都市で合宿中の京都産業大学サッカー部と練習試合を行なうなど、京都産業大学とも縁のある宮崎の鵬翔高校が、全国高校サッカー選手権でPK戦をことごとくものにする事で、激戦を制し、まさかの？優勝。また、その挑戦は京都から始まったとも言われていますが、和食の「世界無形文化遺産」登録。そして、2020

年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定といったこともありました。

ご案内のとおり、京都産業大学は、いよいよ来年、創立50周年を迎えます。建学以来大切にしてきた「チャレンジ精神」を根幹におき、そのスローガンは「Keep Innovating」。どんな時代にあっても、型やぶりの挑戦を続ける、京都産業大学の発展に、私たち卒業生もなんらかの形で寄与したいものです。

京都産業大学同窓会においても活発な動きがあり、昨年は、秋田県支部、沖縄県支部、長野県支部、宮城県支部が相次いで設立され、さらに本年1月には、台湾で台北支部が設立される予定です。

本年2月1日(土)開催の宮崎県支部総会におきましては、藤岡一郎学長にも出席いただくとともに、京都産業大学広報大使「むすびわざアンバサダー制度」で第1号として就任され、日本初のプロラクロスプレーヤーとして活躍中の、山田幸代氏に講演をいただく予定です。ぜひ多くの皆様に参加いただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

新しい年が、県民の皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますよう、心からお祈り申し上げまして、年頭のごあいさついたします。

「むすびわざアンバサダー」山田幸代さん

京都産業大学は、昨年、創立50周年広報大使「むすびわざアンバサダー制度」を設置しました。

その第一号に日本初のプロラクロスプレーヤーとして活躍中の山田幸代さんが就任されました。

平成27年に迎える創立50周年の節目にあたり、「建学の精神」を受け継ぎながらさらなる飛躍を期すべく、社会・地域に貢献していく取り組みの一環として、この制度を立ち上げたものです。

山田幸代さんは、日本初のプロラクロスプレーヤーとして、国内外で活躍中の、滋賀県出身、平成17年経営学部卒です。

「むすびわざ」とは、京都産業大学の「産

業」を「産(む)すび業(わざ)」と読み解き、モノ・コト・ヒトを新しい発想で「むすび」、新たな価値を「産み出す」としており、山田さんは「むすびわざアンバサダー」として、地域・社会と大学の懸け橋としての活躍が期待されています。

このたび、その山田さんが宮崎県支部の総会に来ていただくことになりました。2月1日(土)の総会にぜひお越しください。



会員短信

大学で培ったもの・・・、そして宮崎 林 芳子(昭和49年外国語学部卒)

私が昭和45年に入学した頃、何よりも女子が非常に少なかったことを覚えています。外国語学部英米語学科なので、どの授業でも女子はいましたが、ほかの学部では本当に少なかったようです。

私は、高校時代からフォークソングが好きでしたので、軽音楽部に入りました。当時の軽音楽部は、ジャズ・ロック・フォーク・ウエスタン・ハワイアンなど、何でもありでした。入部後、しばらくはハワイアンをやっていました。その後、フォークバンドのフォークトレインに誘われて、何度かコンサートに参加しました。

コンサートといえば、司会をお願いする関係で、落研とのつながりが強かったです。当時は、笑福亭鶴瓶さんが同じ学年、あとで有名になった「あのねのね」も、原田さんの方は同じ学年で、友達の友達でした。

鶴瓶さんは、入学後すぐに、コンサートでだったと思いますが、司会をするのを見て、「うまい1回生がいるなあ！」と、感心したものです。

彼は2回生で大学をやめました。大学の行事などには顔を出していません。後年知ったことですが、当時から交際していた英米語学科の方と結婚したようで、「素敵で誠実だな！」と、思っています。

「あのねのね」の原田さんに関しては、面白い話があります。私は、二条城の近くに住んでいたの、市バスで上賀茂神社まで来て、スクールバスに乗りかえたり、時間があれば徒歩で学校まで通っていたのですが、よく上賀茂神社で原田さんと一緒になりました。教養科目でとっていた国際政治学の授業も一緒でした。

そんなある日、原田さんが、「今度バンドを作る」と言いました。その頃、私はどこのバンドにも入っていなかったの、「私も入れて！」と頼んだところ、「いや、だめだ！」・・・「なんで？」・・・「だって、俺たちは、サイモンとガーファンクルを目指しているのだから」と。

その話は、たぶん、2回生の秋頃のことだったと思います。その後しばらくは、原田さんと（上賀茂神社で）会うことがなくなりました。2回生も終わりに近づいたある日、外国語学部の前の噴水の所で、遠くから手を振る原田さんに気づきました。「こちらに来て！」と、手招きをされたのですが、遠かったこともあり、「またね！」という意味で、バイバイと手を振りました。それが、彼と会った最後になりました。

数ヵ月後、部屋でテレビを見ていたら、

当時あった「スター千一夜」という番組に、原田さんが、「あのねのね」として出ていました。本当にびっくりしました。「あのねのね」は売れに売れ、彼は本当に遠い人になりました。

私は、卒業後、西武流通グループの(株)エフに就職し、上京しました。就職先では大卒女子の一期生でしたので、ずっとそこで働くつもりでしたが、1年後に結婚をしたこともあり、3年で退職、出産しました。

その後、子供が病弱だったので、自宅でできる仕事とを考え、自宅のあった静岡県磐田市で学習塾を開きました。



当時は、子供の数が多く、すぐに生徒が100名を超えました。今から思うと起業しやすい、世の中が元気な時代でした。それから20数年が、あっという間に過ぎました。

少子化が進み、将来に不安を感じていた頃、宮崎医大を卒業した娘から誘われ、宮崎に来ました。平成17年4月のことです。

長い間、仕事を続けてきた私です。宮崎でも塾を開きたいと考えていましたが、教室を借りてどうなるかが、とても不安でした。ところが、あるとき、「地区の公民館を借りたら？」と、言ってくれる人がいて、早速、地区の役員さんをお願いに行きました。突然に宮崎に来た、どこの誰ともわからない私に貸してくれるだろうかと心配でしたが、良いお返事をいただくことができました。そのときに、口をきいてくださった方や、その後も折に触れてお世話をしてくださった方、生徒さんを紹介してくださった方など、ほかの土地では考えられない優しさ、情の厚さに接し、とても感謝しています。

フェイスブックが縁でお誘いをいただき、宮崎県支部の集まりに参加させていただきました。大学を卒業してすぐに関東に行き、その後も静岡県にいた私です。また、自分が長くいる塾業界でも、同窓生に会えなかったの、母校とのつながりは、テレビで見る鶴瓶さんや「あのねのね」以外には、ほとんどありませんでした。それでも、浮き沈みの激しい業界で、ずっと仕事を続けてこられたのでは、「女子が少ない大学」で培った精神のおかげだと思っています。今は、学習塾という仕事を通して、少しは地域にも貢献したいな、と、考えています。それが、私の宮崎に対する恩返しだろうと考えているこの頃です。